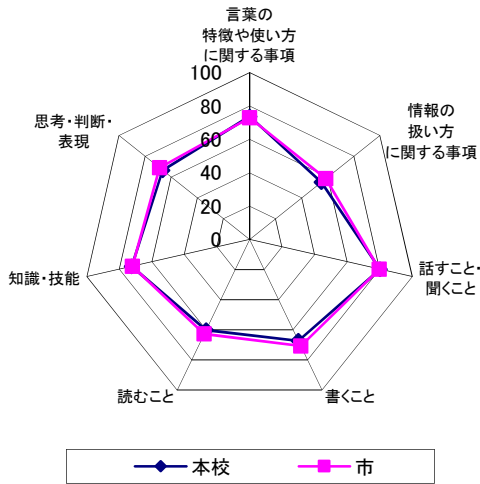


宇都宮市立築瀬小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.8	73.0	75.5
	情報の扱い方に関する事項	55.0	58.5	59.0
	話すこと・聞くこと	80.2	79.8	75.9
	書くこと	67.3	70.7	71.7
	読むこと	60.2	62.8	62.5
観点別	知識・技能	72.5	72.0	74.4
	思考・判断・表現	66.6	69.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

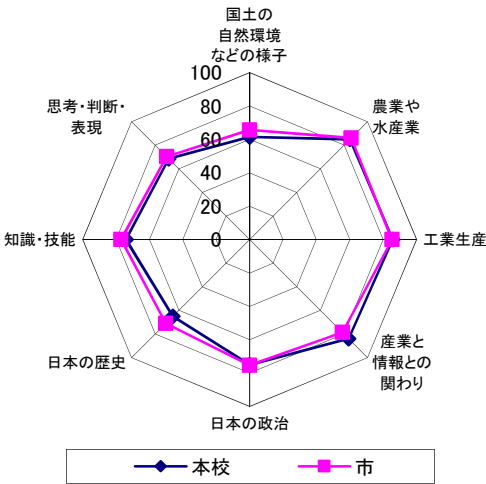
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市と比べて0.8ポイント高い。 ○漢字の読み書きについては、市の平均より低いものもあるが、校内の平均正答率はほぼ80%を超えており、朝の学習や漢字オリンピックへの取り組みの成果が表れていると考えられる。 ●言葉の学習の敬語の使い方については、謙譲語で市の平均正答率より12.7ポイント低く、尊敬語では4.5ポイント高いものの正答率は50%に届かなかった。敬語の使い方に課題が見られる。	・漢字の読み書きの定着に向けて、朝の学習や漢字オリンピックに引き続き取り組み、いろいろな問題に触れられるようにしていく。 ・国語の学習だけではなく、日常生活においても意識して敬語を使えるように指導していく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市と比べて3.5ポイント低い。 ●報告する文章を書く問題において、複数の資料の情報と情報の関係を理解し、目的に応じた文章を書けた児童の割合が50%台であり、情報の扱い方に課題が見られる。今年度の学習指導の取組として挙げていた観察・実験結果から考察レポートや論述などを作成できるようにする指導が不十分であったと考えられる。	・国語の時間だけではなく理科や社会・総合などで資料を活用した学習をする時にも、資料を読み取って文章に適切に表すことができるように指導していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市と比べて0.4ポイント高い。 ○話し手の工夫や司会者の工夫を捉えている児童は80%以上おり、「築瀬小学習の決まり」で、子どもたちの学習の基礎・基本となる学習態度について徹底させてきた結果であると考えられる。 ●互いの立場を明確にしながらか計画的に話し合い、考えをまとめることについては、市の平均正答率より6.8ポイント低く、課題が残る。直接の話し合い活動ができなかったことも原因の一つと考えられる。	・話し合い活動の時には話し方を工夫したり、話し手の意図を考えながら聞いたりしていく事を指導していく。 ・児童の話すこと・聞くことの基礎・基本が身に付けられるように「築瀬小学習の決まり」を引き続き活用していく。
書くこと	平均正答率は、市と比べて3.4ポイント低い。 ○自分の意見とその理由を明確にして書くことについては80%以上の児童ができています。日頃から「上手な話し方」として理由を述べながら意見する習慣ができていたためだと考えられる。 ●賛成しない意見への反論を書くことについては、市の平均正答率より5.2ポイント低く、相手の意見をふまえて自分の意見を述べることに課題が残る。	・相手の意見の意図をふまえて自分の意見を書けるように、「話すこと・聞くこと」の指導と関連させて指導していく。
読むこと	平均正答率は、市と比べて2.6ポイント低い。 ○物語や説明文の全体像を捉えることは市の平均正答率より低いですが、70%以上の児童ができています。 ●登場人物の心情について、描写を基に捉えられた児童は30%台であった。友達と自分の意見を交流させ、学び合うことで内容を深く理解していくような活動が不足していたためだと考えられる。また、読み聞かせの機会が昨年度に比べて減少した事で、物語に触れる機会が減ったことも原因の一つではないかと考えられる。	・友達と自分の意見を交流させることで登場人物の心情をより深く理解できるよう学び合い活動を充実させていく。 ・物語や説明文の全体像だけでなく、本文を根拠として細部まで読み取れるように日々の授業で指導をしていく。 ・「朝の読書」や「読み聞かせ」、「読書週間」などを通して、読書の質を高め、読書量を増やすことで物語や説明文の読み取りの力を伸ばしていく。

宇都宮市立築瀬小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	61.5	65.7	67.0
	農業や水産業	84.9	86.1	77.5
	工業生産	85.8	85.4	76.7
	産業と情報との関わり	84.0	78.6	69.6
	日本の政治	75.0	75.2	65.8
	日本の歴史	65.1	71.1	69.1
観点別	知識・技能	74.1	77.0	72.8
	思考・判断・表現	68.5	70.3	64.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

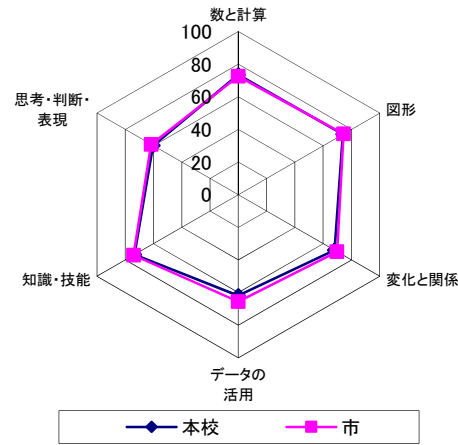
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市と比べて4.2ポイント低い。 ○日本周辺の国名と領土の端について問う問題では、市の平均正答率より4ポイント高くなっている。 ●日本の気候の様子について雨温図と地図上の都市を選ぶ問題は、市の平均正答率より9ポイント低くなっている。	・教室での学習ばかりでなく、日本周辺の国の動向や領土問題に関するニュースなどに関連付けて考えていけるようにしていく。 ・日本の気候の様子については、雨温図を用いた指導をもとに、降水量や気温に着目しながら地域における気候の違いについて理解できるようにする。
農業や水産業	平均正答率は、市と比べて1.2ポイント低い。 ○水産業の国内生産量と輸入量の変化について読み取る問題では、市の平均正答率より6ポイント高くなっている。 ●米作りの作業について問う問題では、市の平均正答率より11ポイント低くなっている。	・米作りについては、5年生で「バケツ稲」を育てる体験をしている。他の学習内容においても、復習をする機会を設け、学習内容の定着を図る。
工業生産	平均正答率は、市と比べて0.4ポイント低い。 ○機械工業で作られる品目を選ぶ問題では、正答率は市の平均正答率より3ポイント高くなっている。 ●電気自動車についての記述の問題では、市の平均正答率より2ポイント低くなっている。	・身近な出来事について関心をもたせ、日常生活と工業生産を関連付けて考えることができるよう授業の展開を工夫する。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市と比べて5.4ポイント高い。 ○放送、新聞などに着目して、情報産業の役割や責任の大きさについて捉え、判断する問題では、市の平均正答率より7ポイント高くなっている。 ●森林を守るための間伐についての問題では、市の平均正答率より、9ポイント低くなっている。	・情報産業や情報化社会の領域においては、自分の身の回りの問題であるという認識を高めながら、基礎事項を確実に定着させ、さらに自ら判断できるよう指導していきたい。 ・引き続き、資料を読み取るだけでなく、資料から分かったことや考えたことを文章でまとめたり、伝え合ったりする活動を取り入れ、児童がより理解を深められるようにする。
日本の政治	平均正答率は、市と比べて0.2ポイント低い。 ●日本国憲法における天皇の地位について問う問題では、市の平均正答率より6ポイント低くなっている。	・家庭と連携して、ニュースを見たり、新聞を読んだりするなど、世の中への興味関心を広げるようにする。 ・地域の社会的事象の調査活動や資料活用への学習を取り入れ、日常生活における政治の働きと我が国の政治の考え方を理解させる。
日本の歴史	平均正答率は、市と比べて6ポイント低い。 ●弥生時代の人々の暮らしを問う問題では、市の平均正答率より、14ポイント低くなっている。 ●奈良時代の政治について問う問題では、市の平均正答率とより、10ポイント低くなっている。	・1つの資料だけでなく、いくつかの資料を組み合わせながら、事象をしっかりと捉えさせ、その時代の出来事や人々の生活の様子などを把握することができるよう指導を重ねていく。 ・教科書や資料集の用語を使って、単元ごとに課題を明確にする。さらに日常のノート指導などを通してノートのまとめ方などを指導していきたい。

宇都宮市立築瀬小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	73.5	72.6	71.6
	図形	73.9	74.4	72.0
	変化と関係	68.0	69.8	62.6
	データの活用	61.9	65.5	59.1
観点別	知識・技能	73.4	74.1	68.9
	思考・判断・表現	60.4	61.6	63.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

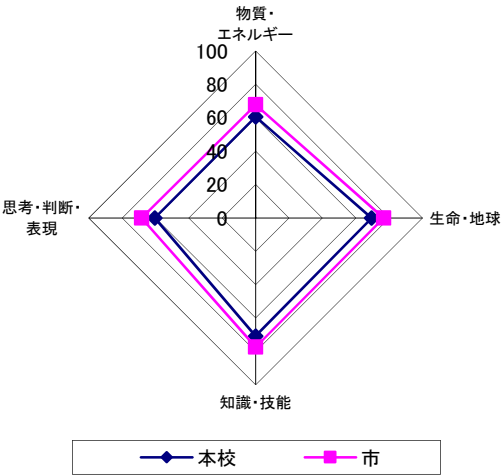
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市と比べて0.9ポイント高い。 ○小数のかけ算・わり算、分数のかけ算・わり算の正答率が高く、82.6～93.8%だった。 ●分数のたし算では、他学年で既習した事項が定着しない状況で、平均正答率63.8%にとどまり、市の平均正答率より16.3ポイント低い。	・かけ算やわり算の問題のほか、分数のたし算ひき算も取り組ませて、通分・約分などの復習を行う。 ・学年末にまとめの学習に力を入れることで学年で身に付けるべきことはその学年のうちにできるようにするとともに、必要に応じて新しい単元の学習前に既習事項が定着しているかチェックしたり、朝の学習の時間に復習問題に取り組みせるなどして基礎的な力が付くようにしていく。
図形	平均正答率は、市と比べて0.5ポイント低い。 ○台形の面積を求める問題で、市の平均正答率より2.3ポイント高い。正八角形の作図方法から、円の中心のまわりのできる角や内角の大きさを求める問題は平均正答率45.0%で、市の平均正答率より1.5ポイント高い。 ●「図形」領域の正答率は73.9%で、市の平均正答率より、0.5ポイント低い。	・これらも、いろいろな図形の問題にふれさせ、その性質などを見いだし、統合的・発展的に考察する力を育てていく。多角形の問題にも多く取り組ませる。
変化と関係	平均正答率は、市と比べて1.8ポイント低い。 ○単位量あたりの大きさや速さの基本的な問題、たとえば値に0がある分離量の平均を求める問題では市の平均正答率より2.8ポイント高い。 ●文章の読み取りを必要とする設問に対しては、問われている内容がつかめない児童が多く見られた。	・文章の読み取りが必要な問題は、何を解答すればよいか授業中にしっかり押さえられるようにし、発展的な問題にも習熟状況を見て取り組ませる。
データの活用	平均正答率は、市と比べて3.6ポイント低い。 ○度数分布表については、市の平均正答率より1.6ポイント低いが、85.0%が理解していた。ソフトボール投げの平均値を求める問題では、市の平均正答率より2.7ポイント高い。 ●グラフを読み取って、その理由を説明することや、最小値を求める問題の平均正答率は、48.8%で、市の平均正答率より4ポイント低い。	・算数以外の社会や理科などの時間にも、いろいろなグラフや複数の資料からわかることを読み取るような活動に取り組ませる。 ・児童が解き方をじっくり考えて、自分の考えを書いたり、友達に伝えたりする場面を多く設ける。

宇都宮市立築瀬小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	60.6	67.8	64.1
	生命・地球	69.5	76.7	78.3
観点別	知識・技能	70.8	77.4	78.3
	思考・判断・表現	60.4	68.3	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市と比べて7.2ポイント低い。 ○電磁石を強くする方法を問う問題では、市の平均より3.2ポイント高い。 ●火が消える理由を文で説明する問題では、適切な語句を用いての説明できなかったための誤答が多くみられた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎的な事象の理解を一層深めるとともに、現象に対する考察を自分の言葉で説明する活動を学習に取り入れる。
生命・地球	平均正答率は、市と比べて7.2ポイント低い。 ○雲画像を見て台風の進路を動き方を推測する問題では、市の平均より3.1ポイント高い。 ●酸素が多い血液が流れている場所を問う問題では、それぞれの器官の働きを関連付けて考えることに課題が見られる。	・血液の流れと各器官の働きを理解させるとともに、それぞれの場所での酸素と二酸化炭素の交換を関連付けながら理解を深めるようにする。

宇都宮市立築瀬小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・書く力の向上と話し合いの仕方、ノートの取り方・まとめ方などの指導	・国語だけでなく、他教科においても、資料や観察、実験結果から考えを書く活動を取り入れる。 ・「築瀬小学習のきまり」を活用し、話し方や聞き方を指導する。 ・ノートの取り方の例を各クラスに配付し、学習したことや考えを自分なりにまとめられるように指導する。	・国語の「情報の扱い方に関する事項」の領域では、報告する文章を書く問題において、複数の資料の情報と情報の関係を理解し、目的に応じた文章を書けた児童の割合が50%台である。 ・算数の「データの活用」の領域では、市の平均より3.6ポイント低い。 ・国語の「話すこと・聞くこと」の領域では、話し手の工夫や司会者の工夫をとらえている児童は80%以上いるが、互いの立場を明確にしながら計画的に話し合い考えをまとめることについては、市の平均より6.8ポイント低い。 ・国語の「書くこと」の領域では、自分の意見とその理由を明確にして書くことについては、80%以上の児童ができていますが、賛成しない意見への反論を書くことについては、市の平均より5.2ポイント低い。
・漢字や計算などの基礎的な技能の習得に向けた指導	・毎週水・金曜日の朝の学習時間を利用して漢字や計算の習熟を図れるような課題に取り組ませる。 ・年に一回「漢字・計算オリンピック」を開き、1か月前から朝の学習で漢字や計算練習に重点的に取り組む。また、保護者にも文書を出し、この期間に家庭学習でも積極的に漢字や計算練習に取り組めるよう協力を依頼する。 ・少人数指導やコース別学習などを行い、個別指導をする。	・漢字の読み書きについては、市の平均より低いものもあるが、校内の平均正答率は、ほぼ80%を超えている。 ・「数と計算」領域の正答率は73.5%で、市の平均より0.9ポイント高い。 ・小数のかけ算・わり算の正答率は82.6～93.8%。 ・他学年で学習した分数のたし算の正答率は、市の平均より16.3ポイント低い。

★市の結果を踏まえての次年度の方向性

・国語の「情報の扱い方に関する事項」の領域では、報告する文章を書く問題において、複数の資料の情報と情報の関係を理解し、目的に応じた文章を書けた児童の割合が50%台であり、情報を活用して書く力が不足していることが分かる。また、算数の「データの活用」の領域では、市の平均より3.6ポイント低く、グラフを読み取って理由を説明する力が足りないことが分かる。このことから、資料等を踏まえて考えを書く力を付ける必要があるため、本年度に引き続き、国語だけでなく他教科においても、資料や観察、実験結果から考えを書く活動に取り組み、書く力の向上を目指す。 ・国語の「話すこと・聞くこと」の領域では、話し手の工夫や司会者の工夫をとらえている児童は80%以上いる。また、「書くこと」の領域では、自分の意見とその理由を明確にして書くことについては、80%以上の児童ができています。これは、「築瀬小学習のきまり」にある話し方・聞き方で理由を述べながら話すなどの指導をしてきた結果であると考えられる。しかし、「話すこと・聞くこと」の領域の互いの立場を明確にしながら計画的に話し合い考えをまとめることについては、市の平均より6.8ポイント低く、「書くこと」の領域の賛成しない意見への反論を書くことについては、市の平均より5.2ポイント低い。このことから、自分の考えを述べることに力をつけてきたが、相手の考えと自分の考えを比べて聞く力が足りないことがわかる。そこで、次年度は「築瀬小学習のきまり」にある「話の聞き方」において、特に自分の考えと友達の考えを比べながら聞くことに力を入れて指導したい。 ・漢字の読み書きについては、市の平均より低いものもあるが、校内の平均正答率は、ほぼ80%を超えている。また「数と計算」領域の正答率は73.5%で、市の平均より0.9ポイント高い。これは、朝の学習時間を利用して漢字や計算の習熟を図り、特に「漢字・計算オリンピック」の期間に合わせて1か月前から朝の学習で漢字や計算練習に重点的に取った結果であると考えられる。また少人数指導やコース別学習などを行い、個別指導をしたことは、大部分の児童が計算の基礎的な技能を身に付けるのに役立ったと考えられる。一方で、他学年で学習した分数のたし算の正答率は、市の平均より16.3ポイント低かった。そこで、次年度は学年末にまとめの学習に力を入れることで学年で身に付けるべきことはその学年のうちにできるようにするとともに必要に応じて新しい単元の学習前に既習事項が定着しているかチェックしたり、朝の学習の時間に復習問題に取り組ませるなどして漢字や計算の基礎的な力が付くようにしていきたい。
